

赤十字基本原則：人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性



広く県民の皆様にも、血液事業の現状を知っていただき、少しでも多くのご協力をいただけるよう昭和四十

年より厚生労働省・都道府県・日本赤十字社の主催により、「愛の血液助け合い運動月間」を実施しています。

7月は「愛の血液助け合い運動月間」です

今年も七月一日から一ヶ月間にわたり「愛の血液助け合い運動月間」が全国一斉に展開されます。

鹿児島県では、七月五日

(土)午後二時より天文館アーケード(天神びらもーる)

鹿児島銀行天神馬場支店前

において、「かごしま親善大使」「ライオンズクラブ」

「学生献血推進協議会」、「高校生ボランティア」など各種団体の協力により、夏場の血液不足に対する献血への協力を呼びかけるキャンペーンを実施します。

県民の皆様方の献血へのご協力をよろしくお願いいたします。



第四回「献血おもしろセミナー」を開催いたします

新企画「キッズ献血」登場

鹿児島県赤十字血液センターでは、児童の夏休みの自由研究を応援するとともに、これからの献血基盤を担う献血可能年齢以下の若年層も含め、より多くの皆様へ献血に対する理解と献血思想の普及・啓発を図るため、夏休み期間中に県下各小学校高学年児童(四・五・六年生)並びにその保護者(教職員による引率含む)を対象とした「献血おもしろセミナー」を開催いたします。

内容は、小学生が理解できる程度の献血やクイズ、血液センター内の各部門の見学及び本年より新企画として、抽選でお医者さんや看護師さんに扮装して献血模擬体験をする「キッズ献血」を予定しています。お帰りの際には、参加していただいた記念として、記念品を差し上げる予定です。

【日時】平成 20年 8月 8日(金)・9日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 14時～16時

【定員】

各回 40名(子供+保護者)計 160名

【場所】

鹿児島県赤十字血液センター5階 研修ホール他

【参加申し込み】

鹿児島県赤十字血液センター 教務課まで
TEL 099-257-3141(代)



■吹上浜砂の祭典で赤十字のPR

「吹上浜砂の祭典」が五月二日から六日までの五日間にわたり、鹿児島県南さつま市かせだドームで開催されました。

日赤鹿児島支部では、五月の赤十字運動月間PRの一環として、非常食の炊き出し実演をはじめ、救急法・幼児安全法のデモンストレーション、災害救援物資や対人地雷模型の展示などを実施しました。

今年は、赤十字安全奉仕団・青年赤十字奉仕団・南さつま市赤十字奉仕団・南さつま市社会福祉協議会職員等にお手伝いをいただき、さらに青少年赤十字加盟校の南さつま市立加世田中学校の生徒二十六名が、元気よく来場者へ声かけをしていただき、赤十字コーナーには例年よりも多い延べ千九百人もの参加がありました。

救急法の体験コーナーでは、子供から大人まで、心肺蘇生法やAEDの使い方など真剣な面持ちで受講していました。受講された方から「AEDは最近デパートでよく見かけるので、講習を受けてみたかった。」という声も聞かれました。

また、五月四日には、鹿児島赤十字病院が頸部動脈エコーによる無料の動脈硬化検診を、五日と六日には、鹿児島赤十字血液センターが移動採血バスによる献血を行うなど赤十字の活動をPRしました。

■平成二十年全国赤十字大会に参加して

日本赤十字社鹿児島支部 十嶋裕子

平成二十年五月八日（木）、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、同名誉副総裁各妃殿下をお迎えして、全国赤十字大会が東京都明治神宮会館で開催されました。この大会に、鹿児島支部からは、理事・赤十字奉仕団・地区区分職員・各施設職員等二十八名が参加しました。名誉総裁皇后陛下は、「ミヤンマーにおいてサイクロンによる膨大な被害が発生したと伝えられております。赤十字に寄せられる期待と要請は今後益々増大するものと思われまます。皆様方が従来にも増して、赤十字の尊い使命に思いをいたされ、より一層力強い活動を国の内外において進められますよう、切に希望いたします。」と話されました。

大会には、全国から赤十字社員や赤十字ボランティアの代表など約二千人が参加し、近衛忠輝日赤社長のあいさつの後、名誉総裁皇后陛下から、赤十字事業の推進に顕著な功績のあつた代表十三人に有功章が贈られたほか、日赤近衛社長から、社業功労者特別表彰が二団体に授与されました。

また、女優で赤十字広報特使の藤原紀香さんが、これまでのボランティア活動とバン格拉デシュを訪れて感じたことについて特別講演を行い、「赤十字のネットワークがあるからこそ私たちの思いが被災者の方々に届いているのだと実感しました」と語りました。

今回このような大きな大会に参加させていただき、赤十字は様々な人々に支えられているということを再認識することができました。これからも日赤の職員であるということに対する自覚と誇りを持ち続けていきたいです。



「赤十字マーク」は、赤十字活動以外には使用することはできません。

■日本赤十字社九州血液センター本稼動

血液の安全性の強化及び集約化による業務の効率化を目的として、血液の検査及び製剤業務を行う「日本赤十字社九州血液センター」が平成十九年十一月久留米市に完成しました。

二〇〇八年一月より九州全県の検査業務を開始、四月より九州七県（沖縄を除く）製剤業務が開始され本稼動となりました。



■出水市で実施された県総合防災訓練に参加

五月二十日（火）、鹿児島県出水市の米ノ津川河川敷及び出水市総合運動公園において平成二十年鹿兒島県総合防災訓練が行われました。

この訓練には、日赤鹿児島県支部の医療救護班や出水市赤十字奉仕団、赤十字アマチュア無線奉仕団が参加し、合同救出訓練、炊飯支援訓練、非常通信訓練を実施しました。

合同救出訓練には、日赤の医療救護班のほかに、DMAT（厚生労働省が認めた専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム）と出水地域の災害拠点病院である出水総合医療センターの要員も参加されて医療救護に関して連携が図れました。

本県支部では、日頃から各種の防災訓練に積極的に参加して関係機関との連絡調整を図るとともに、災害などの有事の際には、迅速・適切な救護活動が行えるよう訓練に励んでおります。



▶消防と連携をとりながらの合同救出訓練



◀出水市赤十字奉仕団による炊飯支援訓練

善意の高額社資 ご協力ありがとうございました。

厳しい経済状況にもかかわらず、社資にご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。

平成20年2月22日から平成20年5月29日までの高額社資（3万円以上）ご協力の方々は下記の通りです。（敬称は略させていただきます。）

※掲載につきましては、ご本人さまの同意をいただいております。

【個人】

市来繁治	陳尾千ミ
大磯千枝	持留久子
永野萌子	森山準二
埜口博子	柳田玉留
濱田一孝	山本富子
福島サチ	吉牟田直
藤岡義道	

【法人】

株式会社クッキー
財団法人慈愛会奄美病院
日本生命労働組合鹿児島支部
フタバ株式会社

「喫煙の弊害と禁煙について」

鹿児島赤十字病院 内科

田中裕之 医師

最近公共のスペースは禁煙化が進み、ほとんどが禁煙となりました。鹿児島県は全国に先駆けてtasupo(タスポ)を導入し、自動販売機でのタバコ販売の規制も始まりました。愛煙家は肩身の狭い思いをされていると思います。なぜこのように、世の中すべてが禁煙・分煙の方向に進んでいるのでしょうか。ただ単に「煙が不愉快だから」とか「火が危ないから」と言うだけでは無さそうです。やはり何と云っても「健康被害」の問題が重要だからです。

喫煙は具体的に何がいけないのでしょうか。様々な問題があります。「肺癌」と「慢性閉塞性肺障害(COPD)」が大きな問題となります。

COPDは、タバコの有害物質が肺の空気を取り込む場所(肺胞)を壊して、身体に必要な酸素を十分取り込めなくなってしまう病気です。

最初のうちは自覚症状はありませんが、進行すると酸素を吸いながらでないと活動出来なくなってしまうます。在宅酸素療法といって、自宅で酸素を吸いながら生活する治療がありますが、活動の制限が生じるため、生活の質(QOL)が大幅に低下してしまいます。ちなみにタバコで壊れた肺胞はもとに戻る事はありませんので、早期の禁煙が効果的です。肺癌はタバコのせいで発生するものとそうでないものがありますので、一概にタバコのせいだけには出来ませんが、タバコを吸わなければ発生の可能性はグッと少なくなります。詳細は省きますが、これも肺癌自体や肺癌の治療によつてQOLが低下してしまいます。

副流煙による影響も問題です。非喫煙者が喫煙者の出すタバコの煙を吸う事で有害物質を吸入し健康被害が生じ

てしまうのです。自分だけでなく、周囲の大切な人達をも巻き込む喫煙は、「百害あって一利無し」なのではないでしょうか。みなさんもタバコが体に悪い事は何となく知っています。禁煙は「肺癌になつても本望」とか、「タバコをやめてイライラするほうが不健康」とか、いろんな理由をつけて喫煙を続けてしまいます。

実際は「やめたたくてもやめられない」と言うのが現実なのではないでしょうか。タバコをやめられない原因は「ニコチン依存」です。ニコチンが切れると、イライラしたり、身体がだるくなったりします。

それを防ぎながらタバコをやめていく方法が「ニコチン置換療法」です。タバコから摂取していたニコチンを、身体に補充しながら、徐々に減量していきます。具体的にはニコチンパッチやニコチンガムなどを

使用しますが、使えばタバコをやめられる「魔法の薬」ではありません。

あくまでも「本人の「タバコをやめる意思」が必要」で、それを手助けするものです。ニコチン置換療法を行うことで禁煙中のイライラ等の症状を和らげ、禁煙の成功率を上げるとされています。治療期間は標準で二ヶ月間で徐々に減量し中止していきます。

簡単に、喫煙や禁煙について書きましたが、禁煙は早ければ早いほど良いと思います。禁煙しなければいけない人、禁煙について興味のある人は、ぜひ最寄の医療機関にご相談下さい。



鹿児島赤十字病院
内科
田中 裕之 医師

■錦江園 園外レクリエーション

五月十八日(日)五月の爽やかな風の中、錦江園の一大イベントである園外レクリエーションが錦江湾公園で行われました。

余興の時間には、五位野わこなる会・谷山南部地区民生委員協議会・福平ボランティア女性部に加えて、今年は新たに平川ジュニア太鼓チームおよび平川太鼓チーム飛天の皆様が素晴らしい太鼓で盛り上げてくださいま

した。

また、バラ園の見学を希望された利用者の皆様は、青年赤十字奉仕団やJRCの手伝いをいただき散策を行いました。色とりどりに咲く満開のバラの花に大変喜んでおられました。

“歌”に“踊り”に“太鼓”に“綺麗な花”に元気をもらい、笑顔が一杯の楽しい一日となりました。

